

生徒の実態表（個別の指導計画の実態からの転記も可）

学校生活全般の生徒の特徴

パソコンが好きで、自分でインターネットを使って調べたいことを検索することができる。手先が器用で、絵を描くのが好きである。好きな単元の授業には集中して取り組むことができるが、初めての単元や苦手な活動では取り組まなかったり、手遊びをしたりすることがある。大きな音や高い音は苦手である。普段の学校生活では見通しを持って行動できるが、急な予定変更に対しては落ち着かなくなることが多い。冗談などが理解できず、友達とトラブルになることがある。交流学級での活動は楽しみにしており、友達と仲良く過ごしたいと思っている。本人、保護者共に、高等学校の普通科への進学を希望している。

教科に関する生徒の特徴

- ・国語は、当該学年の漢字の読み書きはできるが、文章の意味を読み取ることが苦手である。
- ・社会は好きで、全県の県庁所在地を記憶している。歴史的な出来事もよく覚えている。
- ・数学は、計算は得意だが、文章題は苦手である。
- ・理科は、実験には興味があるが、友達と協力して行うことが苦手であり、実験中に周囲の様子を見ているだけのことが多い。
- ・保健体育は、走ることは得意だが、球技や水泳は苦手である。
- ・英語は、聞き取った単語をそのままローマ字で書いてしまう。

短期目標

- ・交流学級での実験・実習のとき、分担表を確認しながら、自分に与えられた役割を最後まで果たす。
- ・活動場所が変更になったとき、変更内容を記した紙を見て、時間内にその場所に移動する。
- ・班活動のときに、話合いの進め方を書いたプリントを見ながら、話合いをする。

支援の手立て

- ・実験・実習の役割と担当者の決め方のルールを書いたプリントを準備する。
- ・実験・実習の班は仲の良い友達と同じ班にする。
- ・変更になった理由と場所を紙に書いて示す。
- ・話合いの流れや具体的な言い方を書いたプリントを準備する。
- ・班活動では仲の良い友達と同じ班にする。